

# 戦時中ラジオドラマ台本にみる話しことばの性差

遠藤 織枝

【キーワード】 話しことばの性差 ラジオドラマ台本 戦時中 終助詞

## 1. はじめに

2001年7月、1930年代後半から60年代初めにかけて、映画、ラジオドラマの脚色家として活躍した小林勝のラジオドラマ台本60冊を入手することができた。現在の話しことばを研究するとき、その歴史的背景となる前時代の話しことばの研究は不可欠で、そのための昭和初期の話しことば資料を得たいと考えている者にとって、これら台本は絶好の資料である。

ラジオドラマであるから、実際の話しことばではない。作者と脚本家によって作られた話しことばであって、自然談話と異なることはいうまでもない。しかし、声優によって話されることを前提に作られたという点では、小説などの会話の話しことばより実際の話しことばに近いもので、自然談話の資料を得るのが困難な現在では次善の資料と言えよう。

この台本をコーパスとして電子化資料を作成し、それを検索して対象とする語を取り出ししながら整理して、当時の話しことばの実態を捉えてみたいと思う。

## 2. 資料の性質と内容

### 2-1. 台本家・小林勝という人。

小林勝については、いくつかの人名辞典が取り上げているが、大高利夫<sup>\*1</sup>は以下のように記している。

[小林勝] 1903年～1982年、劇作家、シナリオライター 早稲田大学講師、愛知県出身、東京帝大美学美術史科卒、在学中、第9次・第10次「新思潮」の同人となり、「五人組事件」などの戯曲を発表。東大卒業後、PCL（写真化学研究所）脚本部に所属し、映画シナリオを手がける。日本の映画シナリオ作家の草分けで、代表作は夏目漱石の作品を映画化した「坊ちゃん」「こころ」「我輩は猫である」など。戦後は昭和25年から45年まで映倫審査員を務めた。また“ラヂオ小説”という新しい放送形式を開拓した。

その著書や作品には以下のようなものがある。

『歌舞伎隈取概観』（京都ぐらりあそさえて1931）、「向日葵」（AK放送台本

1941),「十一時四十分(後「芦溝橋」と改題)」(大隅俊雄原作,小林勝脚色 放送台本 1942.7),「姫鱒」(小林勝補筆 放送台本 1942.9),『シナリオ第1課』(宝文館 1955),「紅い壁の彼方」(『創作代表選集』昭和33年前期 講談社 1958)ほか。

## 2-2 今回使用した台本

入手した台本の放送日時は、台本に明記されているものと、記されていないものがある。明記されていないものは、NHK放送博物館の番組確定表で調べて、いくつかは判明したが、わからないものもある。日付はわからなくても、戦争遂行の宣伝臭の強いものなどで、戦時中であることが明らかなものもある。漱石や藤村などの名作を脚色した台本については、戦前に放送されたのか戦後に放送されたのかわからない。ここでは、昭和初期の日本語の性差を知りたいので、放送日時が明らかなものと、台本の内容で、昭和初期から戦時中であるとわかるもの11本に限った。その時期であることが明らかでも、戦場のできごとなどをドラマにした、男性しか登場しないものは除いた。また、その11本のドラマの中でも、男女の会話が行われている部分だけを取り出した。使用した台本(以下この11本をまとめていうとき「台本」と略記する)を以下に示す。( )内は台本名の略語。

台本名	放送年月日	内容
1, 開墾騒ぎ (開)	不明	土地を有効に利用するための、街中の開墾をテーマとしたコメディ。
2, 帰来曲 (帰)	不明	劇作家の妻が、夫のために画策したことで不和になり、別居した夫婦が軍艦行進曲をきっかけに元の鞘に収まるまでの話。
3, 古戦場 (古)	不明	日支事変に従軍した兵士が数年後同じ土地に娘を同道して訪れ、新東亜建設の為に挺身する決意を固める、娘との対話劇。
4, 五萬円の旦那様 (五)	1940.2.6	嫁いだ娘が消極的な夫に不満を抱いて実家にもどるが、両親に励まされて夫の許にもどる話。
5, 世紀の歌声 (世)	1938.5.22	戦地の兵士や婚約者を思う父と娘の会話部分。
6, 石油 (石)	1939.2.14	石油会社の重役を、その学生時代の友人が、娘の就職の情報を得るために訪れる話。
7, 翼<第一夜> (翼1)	1944.11.14	関西在住の実業家岡川とその若い友人や隣家相良家の娘達と従軍中の知人を思う会話。
8, 翼<第二夜> (翼2)	1944.11.15	画家の相良が、出征する海軍兵士のマフラーに般若の面を描き、岡川が必殺と揮毫する話。
9, 遥かなる地平 (遥)	1940.10.28	満州開拓地の組織上の改変と、内地から花嫁として渡った若い妻達の日常生活を描く。

- 10, 民謡めぐり 1940.2.20 正月に中国の留学生を招いて、中国各地の有名な民謡を学生達に歌わせて紹介する趣向のもの。  
(北支の巻)(民)
- 11, 芦溝橋 (芦) 1942.7.4 芦溝橋事件の当日と、その4年後の太平洋戦争開始の発表の日を舞台に、戦意を固める家族の会話。

## 2-4 電子化データ

電子化データの1部を示す(資料1)。表記は、仮名遣いも字体も台本に書かれていたとおりにしている。台本の句読点を発話の区切りとして、同一話者でも、句点の個所で改行して、それぞれ1レコードとしている。11本の台本で、レコード数(発話数)は3434、登場人物は男性30人で発話総数が2032、女性は26人で発話総数が1402である。

登場人物各話者の発話例を文中で示すとき、話者を略号で[開 20f. a]などと示すが、これはドラマ(開)に登場する20代の女性でa番目の人物を意味する。小文字は女性で大文字は男性とする。

## 2-5 現代語との比較

昭和初期の話しことばであるから、当然現在の話しことばとの違いは予想されるが、その違いを具体的に示すために、現代語と比較しながらみていく。ここでは、現代語の話しことばとして、2000年1月~3月に11回にわたって放映されたTVドラマ「ビューティフルライフ」(以下「ビューティ」と略記する)の電子化資料<sup>\*2</sup>(資料2)を用いる(ここでは、「台本」の発話数に近づけるため、その約半数を抜き出した)。記録的な高視聴率を獲得し、現代の若者の話しことばの「自然で爽やかな会話」<sup>\*3</sup>として、評価されたもので、また、今回の「台本」同様、作られた会話として共通するからである。台本11本と「ビューティ」11回分で量は近いが、「台本」はさまざまな内容・登場人物であるのに対して、「ビューティ」は同じドラマを連続して放映したもので、登場人物もほぼ毎回同じである点異なる。総発話数は3219で、女性が1273、男性が1946である。

「ビューティ」の登場人物は13人で、女性が5人、男性が8人である。「台本」と同じく文中は略号で示すが、[ビ 20m. B]は、「ビューティ」の20代の男性でB番目の人物であることを示す。

## 2-6 数値の出し方

資料1, 2に示したような、データから、必要な語句を検索して、それぞれの話者の性や年代における、使用数を導き出す。今回の資料の発話数は、「台本」で女性1402、男性2032、「ビューティ」で女性1273、男性1946と、いずれも男性が女性の1.45倍、1.53倍多くなっている。そこで、女性と男性の発話数をそろえるため、「台本」の女性の例数は1.45倍、「ビューティ」の女性の例数は1.53倍して換算した数値を( )内に示している。

資料1：台本「翼」〈第一夜〉の文字化データ一部

全体番号	台本名	放送年月日	台本編号	発話	話者	話性	話時代	相手	相手性	相手年	発話の場	関係
1	翼第一夜	1944.11.14	1	小父様。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
2	翼第一夜	1944.11.14	2	おう。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
3	翼第一夜	1944.11.14	3	あつ。	晴子	女	20代	ゆり	女	20代	岡川の家	隣人
4	翼第一夜	1944.11.14	4	どうした！晴子さん、大丈夫かね。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
5	翼第一夜	1944.11.14	5	防空壕へ落ちたのと違ふかね。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
6	翼第一夜	1944.11.14	6	もう少しで落ちるところだったの、御免なさいね、大きな聲を出したりして。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
7	翼第一夜	1944.11.14	7	危い、危い、猛禽到るところに防空壕あり、翼をつけなさいか。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
8	翼第一夜	1944.11.14	8	窓の煙ばかり見てゐたものだから防空壕のこと忘れてゐたの。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
9	翼第一夜	1944.11.14	9	でもよかつたわ、姉さんのお手製のお料理を落さなく	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
10	翼第一夜	1944.11.14	10	なんだ、御馳走を持って来て呉れたのか。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
11	翼第一夜	1944.11.14	11	それちや尚更氣をつけてくれなさいかね。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
12	翼第一夜	1944.11.14	12	御馳走といふ程のものではあありませんつて。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
13	翼第一夜	1944.11.14	13	姉さん仰つてみましたけれど。	岡川	男	20代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
14	翼第一夜	1944.11.14	14	けふは何を頂くのかな。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
15	翼第一夜	1944.11.14	15	莚の葉の佃煮ですわ。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
16	翼第一夜	1944.11.14	16	ほう、莚の葉が食へるのかな。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
17	翼第一夜	1944.11.14	17	え、とても美味しいんですのよ、野菜の不自由な今時、莚の葉をすてるなんて全く勿体ない話ですつて例によつて姉さんの受難りですけれど。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
18	翼第一夜	1944.11.14	18	さうか、それはいい初物をいたゞいた。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
19	翼第一夜	1944.11.14	19	お蔭でまた生命が伸びるね。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
20	翼第一夜	1944.11.14	20	早速今夜お客様とゆつくり頂かう。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
21	翼第一夜	1944.11.14	21	あら、お客様来ていつらつしやるの？	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
22	翼第一夜	1944.11.14	22	うむ、君に紹介するからその浴室からはいつて來給	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
23	翼第一夜	1944.11.14	23	誰方ですの。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
24	翼第一夜	1944.11.14	24	君が以前から一度見たがつてゐた人さ。	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
25	翼第一夜	1944.11.14	25	とにかくはいつていらつしやい。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
26	翼第一夜	1944.11.14	26	小母様はお勝手ですの？	岡川	男	40代	晴子	女	20代	岡川の家	隣人
27	翼第一夜	1944.11.14	27	うむ、珍茶飲手に乏しい頭腦と材料とで大車輪の最中らしいよ。	晴子	女	20代	岡川	男	40代	岡川の家	隣人
28	翼第一夜	1944.11.14	28	わたし、とにかく小母様これをお渡して來ますわ。	岡川	男	20代	和倉	男	40代	岡川の家	隣人
29	翼第一夜	1944.11.14	29	何者ですか。	和倉	男	40代	岡川	男	40代	岡川の家	知人
30	翼第一夜	1944.11.14	30	何、隣のお嬢さんなんだか。	岡川	男	20代	和倉	男	40代	岡川の家	知人
31	翼第一夜	1944.11.14	31	手荒くよく喋る女だなあ。	和倉	男	20代	岡川	男	40代	岡川の家	知人
32	翼第一夜	1944.11.14	32	あつは、出たね、「手荒く」か。	岡川	男	40代	和倉	男	20代	岡川の家	知人

資料2：「ビューティフルライフ」文字化データの一部

A	B		C	D	E	F	G	H	I	J
番号	発話	話し手	性別	年代	聞き手	性別	年代	場面		
1	うん。	杏子	女	20代	終二	男	20代	エレベーター		関係
2	お化粧してたの。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
3	デートだからね。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
4	(ドキッとして寝つけなくなっ)ていつもの道、工事中で、回り道してたの。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
5	あ、そうか、090の。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
6	3462	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
7	あれ。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
8	だって、携帯って自分でかけないからさ。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
9	あ、それ。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
10	はいもしもし。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
11	どこ行っくっていうかね、そっちの番号も教えてよ。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
12	わかった。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
13	ねえきまるよ。	杏子	女	20代	終二	男	20代	パンのあるところ		恋人
14	ごめん。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
15	デザイン盗まれちゃたんでしょ↑。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
16	勉強↑。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
17	ふうん。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
18	とりあえず……とりあえず……ってことではないな。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
19	とにかく、……謝ろうと思っ	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
20	て一人で来るの、よくないと思っ	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
21	てなんか、妙に誤解とか、されたら悪いと思っ	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
22	て彼女とかに……(小声)。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
23	え、でも……	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
24	ともだち、家に泊めるんだ。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		友だち
25	お邪魔しました。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		恋人
26	なになに……	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		恋人
27	さっきも電話したんだよ。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		恋人
28	入って誰？	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		恋人
29	女の人……？	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		恋人
30	アタシ、アタシ……(覚悟、決めて)きのう見たんだよ、女の人、バイクに乗っけてるとこ。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		恋人
31	でも、バイクに乗っけることないじゃない！アタシだってバイク乗りたんだよ。	杏子	女	20代	終二	男	20代	ホットリップ		恋人

### 3、人称詞の使われ方

#### 3-1 1人称詞

男女の人称詞の使われ方をみる。あたし達、わしらなどの複数形は除く。

	「台本」		「ビューティ」		
	女性 (換算値)	男性	女性 (換算値)	男性	
わたし	4 (5.8)	0	53 (81.1)	4	
あたし	21 (30.4)	0	46 (70.4)	0	
私	96 (139.2)	2	0	0	
僕	0	77	0	7	
おれ・俺	0	27	0	157	
わし・僕	0	39	0	0	

「台本」の表記は「わたし・私」「おれ・俺」など、平仮名表記と漢字表記が混用されている。「おれ・俺」の場合は表記の違いはあっても、どちらも「オレ」と発音されていることはわかるが、「わたし・私」では「私」と表記された場合、「ワタシ」と言わせようとしているのか「ワタクシ」と言わせようとしているのかわからない。やむなく、かな書きと区別して載せた。平仮名表記の「わたし」はあるが、「わたくし」はない、また、同じ話者の自称詞の表記が、「わたし・私」と混在していることなどから、96例の「私」の多くは「ワタシ」と言わせているものと想像される。

ここで、「台本」では男性が「ボク・オレ・ワシ」の3語を多用しているのに対して、「ビューティ」では、男性が圧倒的に「オレ」を多用している。「ビューティ」は若者のドラマであり、毎回同じ20代の男女の主人公が中心で展開していて、その主人公が「オレ」と自称するためであろう。「台本」の1人称詞「わし」が「ビューティ」ではみられない。

「台本」の「わし」は(古)の父親が娘に対しての談話、(婦)の60代男性が仲人をした吉田の妻に対して、(翼2)で60代の父親が娘に対して、(世)の父親が娘に向かっての発話の中で使われている。すべて50代以上の男性で、高齢者の自称詞として、特徴づけられている。

### 3-2 2人称詞

話し相手を呼ぶ2人称詞を拾い上げてみる。

	「台本」		「ビューティ」		
	女性 (換算値)	男性	女性 (換算値)	男性	
あなた	47 (68.2)	31	12 (18.4)	5	
あんた	0	3	7 (10.7)	42	
きみ	0	69	0	0	
貴様	0	1	0	0	
お前	5 (7.3)	44	1 (1.5)	81	

「台本」では女性は「あなた」と「お前」である。「お前」は、例1のようにすべて母親から娘に対するものである。

例1：古川さんが帰るまで、お前は起きて待つてるのかい。[五 50f. a]

男性の「あなた」もかなり使われているが、年上の男性から年下の男性に向けてが2例、上の世代に対して3例、同世代で5例、年下の女性に向けて14例、同世代の女性に向けてが7例である。

男性が年上の男性に向かって言う例としては、

例2：あなたこそ若い者に恥をかかせないで頂きたい！[翼 40m. A]

などで、相手は60代の隣人の男性である。「あなた」は現在では敬意が極めて低くなっているが、ここでは本来の敬称として用いられている。女性の「あなた」では

例3：あなたが、そんな心配なんかしなくてもいいんですよ。[芦 40f. d]  
のように、母親が10代の息子に言う例や、

例4：花嫁さんは足りてますの、あなたの村では？[遥 20f. n]  
のように、若い女性が初対面の年上の男性に向かって言う例がある。例4のような用法は現在ではみられないものである。

「きみ」は男性が男性に向かって言う例47例、女性に対して22例である。女性に対するものとして、

例5：そのかはり、僕のぶんを君がこしらへてきてくれ。[声 20m. J]  
のように、兄が妹に対するもの、

例6：君が行けば、奴さん達もついて来るだらう。[遥 30m. G]  
のように、夫が妻に対するものがある。

「ビューティ」の男性の用いる2人称詞は「お前・あんた」がほとんどで「きみ」は1例も使われていない。

#### 4, 応答詞

	「台本」		「ビューティ」		
	女性 (換算値)	男性	女性 (換算値)	男性	
はい	29 (41.5)	3	36 (55.1)	27	
はあい	2 (2.9)	0	3 (4.6)	1	
はあ	12 (17.4)	5	0	2	
ええ	2 (2.9)	0	3 (4.6)	7	
うん	0	33	63 (96.4)	83	
いいえ	20 (29.0)	0	2 (3.1)	0	
いえ	0	0	0	14	
いや	0	55	4 (6.1)	69	

「台本」では、女性は「はい・はあ・いいえ」、男性は「うん・いや」とそれぞれの性に偏っている。女性の「うん・いや」の例はない。

「ビューティ」では、男性の「はい」の使用が増えて、女性との差が縮まっている。また、女性の「うん」は「台本」では皆無であったのが、多用されるようになっていて、発話数に合わせた換算値では、男性より多くなっている。「台本」の時代では大きかった性差がここでは極めて小さくなっている。

#### 5, 終助詞

##### 5-1 「わ」

		「台本」		「ビューティ」	
		女性	男性	女性	男性
わ	総数	240	0	0	0
	敬体+わ	57	0	0	0
	(ゴザイマスわ)	(2)	0	0	0
	(デス・マスわ)	(55)	0	0	0
わね	常体+わ	183	0	0	0
	(ダわ)	(24)	0	0	0
	総数	28	0	3	0
	敬体+わね	12	0	0	0
わねえ	(ゴザイマスわね)	(1)	0	0	0
	(デス・マスわね)	(11)	0	0	0
	常体+わね	16	0	3	0
わねえ	常体+わねえ	1	0	0	0
わよ	常体+わよ	17	0	0	0

終助詞「わ」を、「いやだわ。」のように文の最後で使われるものと、「いやだわ



ね。」のように他の終助詞の前に使われるものと分けて表に示す。

「台本」で話される文の最後の終助詞「わ」は240例ある。これを、「ですわ」のように、丁寧語に接続するものと、「そうだわ」のように常体の語句に接続するものとわけて「敬体+わ」、「常体+わ」としてそれぞれの使われる数をみる。以下同じように文体別に終助詞の接続の数をみていく。

女性の使う「わ」は現在の話しことばでは、その使用が少なくなっているものだが、「台本」の女性の発話の文末では多用されている。総発話1402中240例で、5.5発話に1回の割合で使われている。その中でも

例7：でも、結構でございますわ。[帰 20f. c]

のような「敬体+わ」が23.7%を占めている。

「だわ」は

例8：止つちやつたぢやないの、あらいやだわ。[石 20f. f]

のような常体を受ける使用例が24例あるが、いずれも10代、20代の女性で、それ以上の年代の用例はない。一方、「敬体+わ」は、若い世代、高い世代とも使われている。(古)の娘は19歳という設定だが、

例9：もつと早く見たうございましたわ。[古 10f. b]

のような「ございます+わ」を5例用い、「です・ます+わ」が32例、「常体+わ」が7例と、敬体のものの方が多く使われている。しかも、この話者の発話の相手はすべて父親で、「台本」の時代の娘の父親に対する発話に敬語が多いことをよく伝えている。

もう1人、10代の[石 10f. b]も父親に対しては、14回中5回、父の友人に対しては5回中4回まで「敬体+わ」で話している。若い娘の敬語の使用が多かったことがわかる。「ビューティ」では文の最後の終助詞「わ」の使用例はない。他の終助詞の前の「わ」の使用例で、「わね」として用いる例が、例10など3例あるのみで、この3例とも50代の同一話者である。

例10：なんか、申し訳ないわね。[ビ 50f. a]

## 5-2 「な」

		「台本」		「ビューティ」	
		女性	男性	女性	男性
な		7 (10.1)	73	24 (36.7)	64
	敬体+な	5 (7.3)	8	0	0
	常体+な	2 (2.9)	65	24 (36.7)	64
	(ダ+な)	0	21	1 (1.5)	10
なあ	常体+なあ	0	34	12 (18.4)	18
	(ダ+なあ)		10	1 (1.5)	5
かな		0	36	24 (36.7)	19
かなあ		0	15	1 (1.5)	4

「な」が「か」に続く連語「かな」の使用が多いので、それらは「な」とは別に「かな」で数えた。

終助詞「な」には、感動・詠嘆、禁止、命令の意味のものがある。感動のものでは、男性は常体の

例11：僕達に何の諒解なしに事を決めるのは不賛成な。[開 30m. B]  
のようなものが多いが、「敬体+な」のものも、

例12：よくご存知ですな、先生は。[翼 40m. B]  
のようなものがある。女性の場合の常体のものは、

例13：何でもいいから早く仕事にありつくとまた元のいいお父様に戻るやうな気がするんだがな。[石 10f. c]

と、娘が父親に向かって言うのが1例あるのみである。「…だがな」と、当時としてはやや乱暴な言い方をした娘のことばを受けて、父親が

例14：この頃の若い娘は困ったものだ。すぐ親を批判する。[石 50m. C]  
と言い、このような娘の発話を咎めていることから、こうした話し方が当時の若い娘のものとして一般的ではないことがわかる。敬体のものでは、

例15：あなたこそ話をこんがらかしてしまふんですわ、一寸席をはづして下さいな。北 [五 50f. a]

例16：お庭へいらっしやいな。[翼 1. 20f. g]  
のような「いらっしやい・下さい」などの命令形について、命令をやわらげる働き「な」のものが「敬体+な」で5例、また、

例17：仲直りしておくれな、[五 50f. a]  
のような常体の「くれ」に「お」をつけた命令に「な」をつけた例が1例ある。禁止の例は、

例18：生意気を言ふな。[石 50m. C]  
のようなもので、男性の例が2例あるが、女性の例はない。「ビューティ」の感動の「な」は、

例19：とりあえず……とりあえずってことはないな。[ビ 20f. a]  
など、女性の例も多く、しかも全て常体に接続するものである。また、

例20：いいなあ、車椅子で終二の気が引けるんだったら……。[ビ 20f. d]

例21：養護学校の仲間たちって、どうしたかなあ……。[ビ 20f. a]  
のように、「なあ」「かなあ」を女性が使う例がみられる。これは「台本」には全くみられなかったものである。

「ビューティ」の禁止の例としては、

例22：ああいうことは言うな。[ビ 50m. A]  
など、男性の5例がある。命令の例では、男性と女性と1例ずつある。

例23：婦人な。[ビ 30m. A]

例24：ほら、正夫、お礼、言いな。[ビ 50f. a]

例 24 は 50 代の母親から息子に対して発せられた命令である。

### 5-3 「ね」

		「台本」		「ビューティ」	
		女性	男性	女性	男性
ね		110 (159.5)	203	148 (226.4)	69
	敬体+ね	31 (45.0)	35	0	0
	常体+ね (ダ+ね)	79 (114.6) 0	168 34	148 (226.4) 5 (7.7)	69 3
ねえ		9 (13.1)	15	7 (10.7)	4
	敬体+ねえ	1 (1.5)	6	0	0
	常体+ねえ (ダ+ねえ)	8 (11.6) 0	9 0	7 (10.7) 1	4 0

「台本」では、女性の使用より男性の使用のほうが多いが、「ビューティ」では、女性のほうが多い。「だね」は「台本」では例 25 など、男性しか使っていないが、「ビューティ」では、例 26 のような女性の使用が男性のものより多い。

例 25：まあ日本へ来たたらドライブなんかよすんだね。[石 20m. B]

例 26：言えなかったんだね。[ビ 50f. a]

「ね」を強調して長音化する「ねえ」は「台本」では

例 27：すぐ病院へ行くんですねえ。[遥 30m. G]

のような「敬体+ねえ」の例もあるが、「ビューティ」には

例 28：へえ～、やっぱモてる人は違うねえ……。[ビ 20f. B]

のような常体接続のものしかない。

### 5-4 「よ」

		「台本」		「ビューティ」	
		女性	男性	女性	男性
よ		176 (255.2)	199	146 (223.4)	254
	敬体+よ	53 (76.9)	48	2 (3.1)	31*
	常体+よ (ダ+よ)	124 (179.8) 2 (2.9)	151 81	144 (220.3) 37 (50.5)	223 71
	(テ+よ)	4 (5.8)	0	9 (13.8)	9
	(の+よ)	56 (81.2)	0	6 (9.2)	0

「台本」では、

例 29：はい／＼、光はよく売切れるんでございますよ。[帰 40f. a]

例 30：この話は日本でも割合によく知られてゐるんですよ。[帰 40m. D]

など、敬体に接続するものも多いが、「ビューティ」では女性の例は 1 例しかない。

い。「だよ」の女性の例は「台本」では、

例31：ほんとうにそうだよ朝子、仲直りしておくれな、話せば判る人だよ。  
[五 50f. a]

の50代の母親から娘へのことばで使われた2例があるのみだが、「ビューティ」には

例32：がんばってる……がんばってる終二がアタシの生きがいなんだよ。[ビ 20f. b]

など多く使われている。

「てよ」は「台本」では

例33：冬の景色を云つてるんぢやなくつてよ。[開 20f. f]  
のような、いわゆる「てよだわ」ことばで、念をおしたり話者の主張をはっきりさせる「てよ」の用例が4例ある。「ビューティ」にはこの種の「てよ」の用法のものはない。「ビューティ」の「てよ」は

例34：でも、ちゃんと電話してよ。[ビ 20m. A]  
のような依頼を強めるもので、「女性や子供の話し言葉で使われる」<sup>※3</sup>とされるものであるが、女性も男性も同じような使い方をしている。

「のよ」は、「台本」には54例あるが、

例35：今日主人が持つて行つた脚本はね「無敵艦隊」といふのよ。[帰 20f. c]  
など、すべて女性の発話である。「ビューティ」では

例36：終二とサトルには、この店を宣伝して欲しいのよ。[ビ 20f. d]  
など6例あるが、これらもすべて女性の発話である。

### 5-5 「の」

		「台本」		「ビューティ」	
		女性	男性	女性	男性
の	総数	140 (203.0)	2	48 (73.4)	58
	敬体+の	29 (42.1)	0	0	0
	常体+の	111 (161.0)	2	48 (73.4)	58

(1)「明日、用事があるの。」(2)「明日、用事があるんだ。」を並べて、「(1)は話し手が女性に限られ、(2)は主に男性が用いる」<sup>※4</sup>というように、「の」は女性専用とする考え方がある。

「台本」で男性の発話は

例37：いつたいどうして仲違ひするやうになつたの。[民 40m. D]  
など2例のみであるが、「ビューティ」は男性の使用例も多い。

例38：なんでそんなこと言うの。[ビ 20m. A]

例39：図書館に、これ届けに来たの。[ビ 20f. a]

例38の男性の発話と、例39の女性の発話を並べてみたとき、話者の性差は

全くわからなくなっている。

### 5-6 「かしら」

		「台本」		「ビューティ」	
		女性	男性	女性	男性
かしら		20	4	1	0
	敬体+かしら	1	0	0	0
	常体+かしら	19	4	1	0

主に女性が使うとされる終助詞である。<sup>\*5</sup>

「台本」の女性の「かしら」はほとんどは

例40：私，悪かつたかしら。[遥 20f. k]

のような，常体から接続するものだが，1例だけ，

例41：招待券つて，いつたい何枚位来るものなんでせうかしら。[婦 40f. a]  
 のような敬体に続いているものがある。この終助詞は，女性専用の終助詞の代表とされるものであるが，男性の例も4例ある。

例42：もう1滴もないかしら。[石 20m. B]

ほか，20代の男性が友人の家族に向かって，20代男性が友人に向かって，さらに15歳の少年が母親に向かって言うときの発話のなかで使われている。だれかが女性を真似て，偶然使ったというようなものではない。現在中年以上の男性の使用はよく観察されるが，昭和初期は若い男性も，ふつうに使っていたものと思われる。

「ビューティ」では，次に示す，50代女性の1例のみである。

例43：ねえ，終二さん，似合うのないかしら。[ビ 50f. a]

### 5-7 「ぞ・ぜ・(だ)い・(か)い・(わ)い」

	「台本」		「ビューティ」	
	女性	男性	女性	男性
ぞ	0	18	0	10
ぜ	0	20	0	0
(だ)い	0	21	0	0
(か)い	5	43	0	6
(わ)い	0	1	0	0

いずれも男性の専用の終助詞とされるものである。「台本」では「ぞ」と「ぜ」が同じように使われているが，「ぜ」は「ビューティ」では全く使われていない。また，「台本」の「ぞ」には，

例44：それからは貴女の腕ですぞ，いいかな。[婦 60m. A]

のような敬体から接続しているものが2例ある。「ぜ」はすべて常体からの接続

である。

例45：光子さんには逆らはない方がいゝぜ。[開 30m. A]  
などである。「(だ)い」「(か)い」「(わ)い」の終助詞「い」は「主として男性に用いられる」\*6 とされる。

「(だ)い」は「台本」では、男性の例みので、若者も高齢者も使っている。

例46：何と言つて訪ねて行くんだい。[石 50m. C]

例47：どういふ人だい。[翼 1. 20m. D]

「(か)い」は「台本」には 48 例出現しているが、男性で 20 代から 60 代までの使用がみられ、50 代女性の使用もみられる。

例48：どうだい、生沼先生は機嫌はいいかい。[遥 30m. G]

例49：朝子、どうしたの、古川さんがお前を殴ったのかい。[五 50f. a]

例 49 の女性の例は、母親が実家に戻ってきた娘に対しての発話の中のものである。

この語は「ビューティ」でも例 50 のように男性には使われているが、女性の例はない。

例50：ホントかい↑、ホントかい、かあちゃん。[ビ 30m. A]

「(わ)い」は「台本」の 60 代男性の 1 例のみである。

例51：いやはや、重ね重ね惨々ですわい。[帰 60m. A]

## 6. 助動詞（形容動詞）・補助動詞

「た・だ・たまえ」

		「台本」		「ビューティ」	
		女性	男性	女性	男性
た		23 (33.4)	98	33 (47.19)	47
	敬体+た	18 (26.1)	17	3 (4.3)	13
	常体+た	5 (7.25)	81	30 (42.9)	47
だ	常体+だ	2 (2.9)	261	23 (32.9)	61
たまえ		0	(給へ)6	0	0

文末に終助詞をとまわず、「た」「だ」で言い切っているものと、補助動詞「たもう」の命令形で言い切っているものをみる。

「た」の前の文体は、「台本」では「敬体+た」のものも少なくない。女性は 23 例中 18 例が「敬体+た」のものである。

例52：私御近所にきまりが悪くて、きまりが悪くて、いつも泣いてみました。  
[五 50f. a]

などであるが、女性の「常体+た」のものには以下のような例がある。

例53：一寸そこまで、あのね貴方、私、私今五万円拾つちやつた。[五 20f. d]

「台本」では「た」の言い切りは男性が圧倒的に多いが、「ビューティ」では男女ほぼ同じように使われている。

「だ」で言い切っているものは「台本」では男性に多く、女性は2例しかない。その2例は次のようなもので、10代20代の各1例である。

例54：あゝらいやだ、ハハハ。[開 10f. a]

例55：なあんだ、あんな家なの、ニコニコ貯金の泥箱みたいぢやないの。[遥 20f. k]

補助動詞「たまう」の命令形「たまえ（給へ）」は、「台本」に例56など男性の6例があるが、「ビューティ」にはみられない。

例56：そんな所に立つてないではいつて来給へ。[翼 140m. B]

## 6, 1940年代の会話の例

以上は、語の使われ方の頻度を、個々にみてきたが、ここではまとまった会話の1部分をそのまま示して、1940年代の会話のようすをみることにする。知り合っている若い男女の会話と、母親と20代の娘の会話の例をあげる。比較のため「ビューティ」の同じような関係の2人の会話を後につける。

### 6-1 若い男女

a 「台本」(翼1) から。

1 香魚子：修平さん、從軍してゐらしたんでせう？

2 修平：うむ、報道班員を志願して、主にジャワにゐたんだが、どうして知ってるの？

3 香魚子：新聞や雑誌に出てゐた向ふのスケッチを拜見したわ。

4 修平：あゝさうか。

5 香魚子：今度の陸軍美術展覧会で賞をお貰ひになつたのね。おめでたう。

6 修平：やあ、何でも知ってるんだね。

7 香魚子：それで、修平さん、今お住まひは？(中略)やはり毎日繪を描いていらつしやるの？

8 修平：いや、繪も描きたいことは大いに描きたいんだが……

b 「ビューティ」第3話から

9 杏子：とりあえず……とりあえずってことはないな。とにかく、誤ろうと思つて。

10 終二：だから気にしなくていいって、全然まじで。それよりきょうないの↑<sup>\*7</sup>牛井↑

11 杏子：一人で来るの、よくないと思つて。

12 終二：うん↑

13 杏子：なんか、妙な誤解とか、されたら悪いと思つて。

14 終二：なに、誤解って。だれに誤解されるの↑(中略)ともだち単なる、

ここのスタッフなんだ。

15 杏子：ともだち、家に泊めるんだ。

「台本」では、女性は相手の男性の行為には1「ゐらした」5「お貰ひになる」7「お住まい、…ていらつしやる」と、全部尊敬語を用いている。自分の行為には3「拝見した」と謙讓語を用いている。これに対して男性は相手の女性の行為を2「どうして知ってるの？」6「何でも知ってるんだね」と敬語は用いず、4「あゝさうか」と常体で応じている。男女で待遇の仕方がはっきり区別されている。

発話文としては1「…ゐらしたんでせう」2「どうして知ってるの？」など完全な文として話されている。また、「1「知ってるの」5「…なつたのね」3「拝見したわ」など文末に終助詞を使用するものが多い。

「ビューティ」では相手の行為について敬語を用いることは男女ともない。14と15では「…なんだ」は男女共に用いている。文末は「ビューティ」の方は、9「…と思って」10「全然まじで。」など、言いさしで終わる文が多いのが目につく。

## 6-2 母と娘

### a (五)の母と娘の会話の1部分

16 母：どうしたの、古川さんがお前を殴つたのかい。

17 朝子：いゝえ、私を殴つたりなんかしたんぢあないんですけれど。

18 母：ぢあ、どうしたの？

19 朝子：昨夜酔つて帰つて来てー。いきなり猫を蹴つとばしたんですわ。

20 母：猫ぐらい、いゝぢあないの。(中略) どんないさかひをしたの？

21 朝子：だつて月給は安いのに、毎晩酒を飲んで帰るんですもの、迎てもやつて行けやしないから、そう云つてやつたんですわ。

22 母：毎晩酒を飲んで帰へるつて？

23 朝子：えゝ毎晩よ。ひどい時は十二時過る事さへあるんですもの。

24 母：それで何にかい。古川さんが帰るまで、お前は起きて待つてるのかい。

### b 「ビューティ」の第11話の1場面。

24 杏子：ま、いいや、終二、来るからね、いちおうね。

25 久仁子：えっ、何時に来るの？

26 杏子：あしただよ。

28 久仁子：あしたくるのに今から口紅つけてるの？

29 杏子：そんなわけないじゃん、練習、シミュレーション、リハーサル。

30 杏子：あ、そうだ、お母ちゃん。

31 杏子：ちゃんとおめでとうって言ってあげた？

32 久仁子：正夫がちゃんとやってるから心配いらないよ。

「台本」の娘朝子は自分の母親に対して17「ですけれど」19「蹴つとばしたん



ですわ」21「帰るんですもの」など丁寧語を使っているが、母親は常体のみで、「何にかい、待ってるのかい」のようなやや乱暴な言い方もしている。母と娘のことば遣いの丁寧さに大きな開きがある。

「ビューティ」の母と娘は、いっさい丁寧語は使わず、対等な話し方に終始している。また、若い男女の場合とは異なって、この会話では文末の言いさしも少ない。

## 7. まとめ

1940年代初期の話しことばを、いくつかの部分に限ってみてきた。当時の話しことばの性差と、現代の話しことばとの差は予想以上に大きかった。

人称詞では、1人称詞の性差はそのまま現在にも引き継がれている様相がみられた。当時の男性の高年齢者が「わし」を頻繁に用いていることがわかった。2人称詞では、男性の「あなた」がかなり使われていて、しかも、上位者に対しても使われていた。

応答詞では、「はい・はあ・いいえ」が女性、「うん・いや」が男性に偏っており、女性が「うん・いや」と使う例は全くみられなかった。

文末の終助詞では、女性の「わ」の多用が目立った。5.5発話につき1回の割合で使われていた。その中で、敬体に接続するものが2割以上を占めていた。

「な」では、女性の使用は男性の約10分の1、「なあ・かな・かなあ」の女性の使用は皆無であった。

「よ」は女性の使用が男性の使用を上回っているが、「常体+よ」の中の「だよ」は男性が81例もあるのに対して、女性は2例しかなかった。女性は「てよだわ」ことばの「てよ」を4例、「のよ」を56例用いていた。

「の」は女性が圧倒的に多く、女性の140例に対して男性は2例のみであった。

「かしら」は女性が20例に対して、男性も4例存在し、それらはすべて10代20代の若い男性の発話であった。

「ぞ・ぜ・(だい)・(か)い・(わ)い」の主に男性の語とされる終助詞では、「ぜ」が、年齢を問わず、使われていたし、「(だい)い・(か)い」もかなり使われていた。助動詞の「た」「だ」で言い切る文末の使い方は、男性の「た」が女性の約3倍、特に「常体+た」では約11倍、また、「だ」は90倍と、大きな開きを見せていた。

会話としてまとめると、知り合い同士の若い男女の会話で、女性が男性の行為には必ず敬語を用い、自分の行為には謙譲語を用い、男性は相手の女性の行為に敬語を用いないなど、敬語使用の面ではっきりと性差が表れていた。母と娘の会話では、娘が丁寧語を多く用いるのに対して、母親はまったく敬語を使わないなど、世代差が明確に表れていた。

以上、さまざまな面で性差が大きく顕著で、父と娘、母と娘の間の待遇差も大きかったことがわかった。あわせて、現在のことばや、用法が大きく変化してき

ていることもわかった。現在でも、「わ」「の」「かしら」などが、女性専用の終助詞として例示され、「ぜ・(だ)い」など現在ではほとんど使われなくなった語が男性専用として提示されることがあるが、それは、こうした40年代の性差が顕著であったころの日本語の状況をそのまま引き継いで論じられるからではないかと推測されるに至った。今回使用したラジオドラマ台本は、入手した資料のごく1部のごく限られた面での考察にすぎない。今後も引き続き、分析と考察を続けたいと考えている。

- 
- ※1 大高利夫(1990)『作家・小説家人名事典』(日外アソシエーツ)
  - ※2 遠藤織枝(2000)「人気ドラマの話しことばにみる性差—TVドラマ『ビューティフルライフ』の文字化資料から—」(『ことば』21号現代日本語研究会)
  - ※3 同上
  - ※4 野田春美「『のだ』と終助詞『の』の境界をめぐって」(『日本語学』199310vol.12)」
  - ※5 『大辞林』(第2版,三省堂1995),『日本文法大辞典』(山口明穂他編明治書院2001)など。
  - ※6 『大辞林』第2版ほか。
  - ※7 「↑」は同ドラマのビデオ中のイントネーションに基づいて遠藤がつけた。